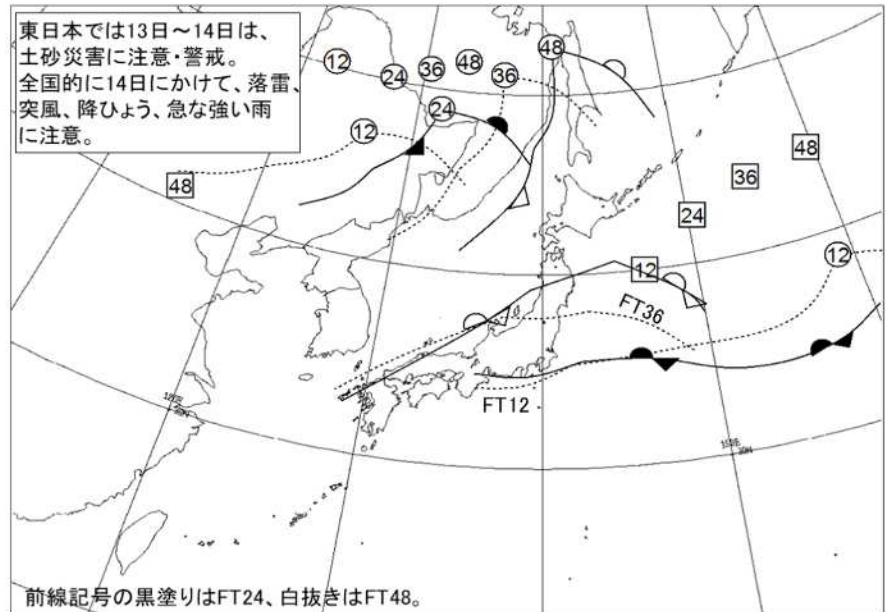


1. 実況上の着目点

- ① 南西諸島付近は地上の気圧の谷で、下層の暖湿気が東風と北東風で収束し、激しい雨を解析。雷を検知。
- ② ①の気圧の谷は九州付近にのびており、日中の気温上昇もあって対流雲が発達、激しい雨を解析。
- ③ 前線が、四国の南～伊豆諸島～日本の東にのびてほとんど停滞。前線周辺で激しい雨を解析。
- ④ 華北～朝鮮半島付近～東北付近～日本の東は帯状の高気圧に覆われている。また、500hPa 5940m以上の上層の太平洋高気圧が、日本の東～日本の南で勢力を強めている。
- ⑤ 北海道地方では、上空に寒気を伴ったトラフが通過中。日中の気温上昇もあってやや強い雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の気圧の谷は西へ進んで次第に不明瞭となるが、南西諸島付近では、13～14日は日本の南を西進する上層寒冷低気圧や対応する地上の気圧の谷の影響を受けるため、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では14日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ② 1項③の前線は、12日はほとんど停滞するが、13～14日は、上層では大陸で深まるトラフの前面で南風成分が増し、下層では三陸沖から千島の東に移動する高気圧の後面の南よりの風が前線に向かって流れ込む。このため、前線は1項②の気圧の谷と共に北上し、14日夜には、西～東日本の日本海側沿岸付近から東北地方を通して三陸沖にのびる。下層暖湿気の影響で前線の活動が活発となり、前線の南側でも日中の気温上昇の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨や局地的には非常に激しい雨の降る所がある。なお、本州付近では12日は、1項④の上層の太平洋高気圧の影響下となるが、13～14日は、上層の高気圧が次第に勢力を弱めるため、対流活動は12日よりも活発になる見込み。また、これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では、通常より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。東日本では13～14日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。西～東日本では14日にかけて、東北地方では13～14日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項⑤の上空寒気は12日夜には弱まるが、14日は別のトラフが接近し、寒冷前線が北海道地方を通過する。気圧の谷や前線に向かう下層暖湿気と上層寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北海道地方では12日は対流雲の発達に留意し、14日は落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(18時から24時間)：東海 120mm。②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無

発表の予定はない。